

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

17.04.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2002年 4月17日

出 願 番 号
Application Number:

特願2002-114801

[ST.10/C]:

[JP2002-114801]

出 願 人
Applicant(s):

株式会社ボックス

REC'D 13 JUN 2003

WIPO

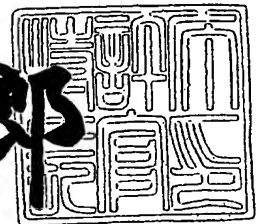
PCT

PRIORITY
DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 5月27日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3038843

BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願

【整理番号】 BX1401

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G09F 13/04

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県藤沢市南藤沢 7 - 2 - 4 0 4

 【氏名】 山内 敏郎

【特許出願人】

 【識別番号】 000137122

 【氏名又は名称】 株式会社 ボックス

 【代表者】 後藤 正明

【代理人】

 【識別番号】 100089509

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 小松 清光

 【電話番号】 3984-3456

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 040213

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 9600495

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 面発光装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 光源の前方へ半透明の拡散パネルを配置し、この拡散パネルを光源の光で面発光させるようにした直下型の表示装置において、前記光源として L E D を用い、この L E D の光を反射するリフレクターと、L E D 及び拡散パネルの間に配置される光制御手段とを備えるとともに、この光制御手段は、前記 L E D の光を反射及び透過し、かつ前記 L E D の中心部に対応する位置に設けられて光の透過量よりも反射量を多くする反射主体部と、その周囲に設けられて前記反射主体部よりも光の透過量を多くした反射透過部を備えることを特徴とする面発光装置。

【請求項 2】 前記 L E D がレンズ型であり、前記光制御手段はこの L E D のレンズ外面へ被さるホルダ部を備え、このホルダ部により前記 L E D に対して着脱自在であることを特徴とする請求項 1 に記載した面発光装置。

【請求項 3】 前記光制御手段が前記 L E D と一体に形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載した面発光装置。

【請求項 4】 前記リフレクターは斜面部を備え、この斜面部の最高部よりも前記光制御手段の前記反射主体部及び反射透過部の位置が低いことを特徴とする請求項 1 に記載した面発光装置。

【請求項 5】 前記光制御手段が前記リフレクターの斜面部上に支持される板状部材であることを特徴とする請求項 4 に記載した面発光装置。

【請求項 6】 前記リフレクターは、前記 L E D が取付けられる平坦な底部と、その周囲を囲む斜面部とからなる L E D の光軸方向から見て円形又は略正多角形状をなす構成を 1 ユニットとし、この 1 ユニットに前記 L E D と光制御手段を設けたものを単数又は複数用いて構成することを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載した面発光装置。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

この発明は、電飾看板や電光表示装置等に用いる面発光装置に係り、特に直下型のLEDを用いて面状発光を可能にしたものに関する。ここで直下型とは、拡散パネルと光源の配置において、拡散パネルと光源を上下に配置したとき拡散パネルの下方に光源が位置する配置関係を意味し、拡散パネルを立てて看者がその前面に正対したときは、その後方側に光源が位置する配置関係をいうものとする。また光源の光がその光軸に沿って進む方向を前方とする。

【0002】

【従来の技術】

電飾看板等に用いる面発光装置として、光源を側部に配置したエッジライト型と拡散パネルの後方へ配置した直下型が知られている。エッジライト型は拡散パネルの後方へ配置した導光パネルへその側端に配置した棒状の光源から光を導入して面発光させるものである。一方、直下型は直接光源で拡散パネルを照射するようになっている。また光源としてLEDを用いることも知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

上記エッジライト型の場合、高価な導光パネルを用いるため、面積が大きくなればなるほど著しく高価なものになる。しかも光源から発光面までの光の導入経路が長くなり、それだけ減衰が大きくなるため、より強力な光源を設けなければならず、この点でもコストが嵩むとともに、光源を側方へ配置する分だけ装置が大型化する。

【0004】

一方、直下型の場合は、光源と拡散パネルの距離が近いため、拡散パネルを通して光源の形が見えるなど拡散パネルの輝度にムラが生じ、均一な発光面を有する面状発光体を得ることができない。また、輝度をより均一化しようとするれば拡散パネルと光源の間隔を大きくすることになるが、このようにすると全体が暗くなり、かつ装置が厚くなって大型化する。発熱光源を用いる場合も拡散パネルと光源を離さなければならないので同様な問題がある。

そこで本願発明は、直下型で、かつ十分に明るい面状発光体を得るとともに、安

価かつコンパクト化できる面発光装置の提供を目的とする。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するため本願の面発光装置に係る請求項 1 の発明は、光源の前方へ半透明の拡散パネルを配置し、この拡散パネルを光源の光で面発光させるようにした直下型の表示装置において、前記光源として L E D を用い、この L E D の光を反射するリフレクターと、L E D 及び拡散パネルの間に配置される光制御手段とを備えるとともに、この光制御手段は、前記 L E D の光を反射及び透過し、かつ前記 L E D の中心部に対応する位置に設けられて光の透過量よりも反射量を多くする反射主体部と、その周囲に設けられて前記反射主体部よりも光の透過量を多くした反射透過部を備えることを特徴とする。

【 0 0 0 6 】

請求項 2 の発明は、上記請求項 1 において、前記 L E D がレンズ型であり、前記光制御手段はこの L E D のレンズ外面へ被さるホルダ部を備え、このホルダ部により前記 L E D に対して着脱自在であることを特徴とする。

【 0 0 0 7 】

請求項 3 の発明は、上記請求項 1 において、前記光制御手段が前記 L E D と一体に形成されていることを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

請求項 4 の発明は、上記請求項 1 において、前記リフレクターは斜面部を備え、この斜面部の最高部よりも前記光制御手段の前記反射主体部及び反射透過部の位置が低いことを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

請求項 5 の発明は、上記請求項 4 において、前記光制御手段が前記リフレクターの斜面部上に支持される板状部材であることを特徴とする。

【 0 0 1 0 】

請求項 6 の発明は、上記請求項 1 ～ 5 のいずれかにおいて、前記リフレクターは、前記 L E D が取付けられる平坦な底部と、その周囲を囲む斜面部とからなる L E D の光軸方向から見て円形又は略正多角形状をなす構成を 1 ユニットとし、

この1ユニットに前記LEDと光制御手段を設けたものを単数又は複数用いて構成することを特徴とする。

【0011】

【発明の効果】

請求項1の発明によれば、光制御手段を設け、これを拡散パネルとLEDの間に配置し、かつ光制御手段に反射主体部と反射・透過部を設けたので、LEDと拡散パネルの間に形成される光乱反射域と透過・乱反射域の光量を平均化できる。このため拡散パネルの輝度は全体が均一化した面状発光となる。

しかも、光制御手段を介在させること及びLEDが発熱しないため、光源であるLEDを拡散パネルへ近接できるので、全体の明るさを十分にでき、かつ装置の厚みを薄くして全体をコンパクト化できる。しかも特別なLEDを使用しなくても済むのでコストも安くなる。

【0012】

請求項2の発明によれば、光制御手段をLEDと別体に形成し、かつそのホルダ部にてレンズ型のLEDのレンズ部外面に対して着脱自在にしたので、LEDを特別なものではなく市販のものにでき、簡単に面発光装置を構成できる。

【0013】

請求項3の発明によれば、光制御手段をLEDと一体に形成したので、光制御手段を別に形成してから取付ける必要がなく、装置の構造及び組立が簡単になる。

【0014】

請求項4の発明によれば、前記リフレクターに斜面部を設け、この斜面部の最高部よりも前記光制御手段の前記反射主体部及び反射透過部の位置を低くしたので、リフレクターの斜面部による乱反射光を、拡散パネルと光制御手段の間に形成される空間である透過・乱反射域へ十分に導くことができる。したがって、拡散パネルと斜面部上方との間に形成される空間である乱反射域と、光制御手段上の透過・乱反射域における光量を均一化し、拡散パネル全体の輝度を均一化を可能にする。

【0015】

請求項 5 の発明によれば、光制御手段をリフレクター上へ置き、周囲をリフレクターの斜面部にて支持させたので光制御手段の取付が簡単になる。しかも、位置決めも容易にできる。

【 0 0 1 6 】

請求項 6 の発明によれば、底部と斜面部からなるリフレクターの基本構造を L E D の光軸方向から見て、円形又は略正多角形状の 1 ユニットとし、これに L E D と光制御手段を設けたものを単一又は複数組み合わせることにより装置を組み立てるので、需要に応じて自由な大きさの面発光装置を形成できる。しかも、円形又は略正多角形とすることにより、各ユニットにおける輝度は全体が均一になるから、これらを組み合わせていかなる大きさの面発光装置を構成しても、全体として均一な輝度を実現できる。

【 0 0 1 7 】

【発明の実施の形態】

以下、図面に基づいて一実施例を説明する。図 1 ～ 7 は第 1 実施例に係り、図 1 は面発光装置の斜視図、図 2 は図 1 の 2 - 2 線に沿う部分拡大断面図、図 3 は光制御手段の取付を示す図、図 4 は光制御手段を種々な角度で示す図、図 5 は作用を示す図、図 6 はリフレクターを拡散パネル側から示す図、図 7 はその 7 - 7 線断面図である。なお、本願発明においては L E D の光軸に沿って光が進む方向を前方という。

【 0 0 1 8 】

図 1 において、この面発光装置 1 は、電光案内装置等に用いられるよう直方体状をなすケース 1 a とその開口部を覆う拡散パネル 2 を備える。ケース 1 a は金属や樹脂等の比較的剛性を有する適宜材料からなり、屋外使用の場合には耐水性及び耐候性にも優れた材料を用いる。

【 0 0 1 9 】

拡散パネル 2 は半透明のガラスや樹脂等適宜材料からなり、好みにより色づけされるが無色でもよい。但し光源からの光を拡散できるよう半透明であり、構成材料自体を半透明にするか、透明なものの上に直接印刷したり他の半透明なフィルムを積層する等の公知方法により製造される。

【 0 0 2 0 】

図 2 に示すように、ケース 1 a 内には、リフレクター 3 が収容され、その底部 4 には L E D 5 が取付けられている。リフレクター 3 は基板一体型であり、L E D 5 の取付と同時にリフレクター 3 に一体化された電気回路と電気的に接続され、図示しない電源より通電されて発光する。L E D 5 はレンズ 6 を有するレンズ型である。また、発光色は白色等任意に使用できる。なお、本実施例における拡散パネル 2 は、一对の透明シート 2 a、2 a の間に半透明フィルム 2 b を挟んだ積層構造である。

【 0 0 2 1 】

L E D 5 のレンズ 6 外面には光制御手段 7 が取付けられている。光制御手段 7 は A B S などの適宜な樹脂材料からなり、円板部 8 とその中心部へ突出する筒状のホルダ部 9 を一体に有する。

【 0 0 2 2 】

図 3、4 に示すように、ホルダ部 9 には先端から円板部 8 側へ向かってスリット 1 0、1 0 が形成されている。このスリット 1 0 は 1 8 0° 間隔で一对形成される。但し、スリット 1 0、1 0 の間隔や個数は任意である。スリット 1 0、1 0 のうち円板部 8 の近傍となる基部は、周方向へ食い込んで形成された周方向スリット 1 0 a、1 0 a へ連続している。ホルダ部 9 はスリット 1 0 a、1 0 a の間で円板部 8 と連続一体化している。

【 0 0 2 3 】

図 4 の C に示すように、ホルダ部 9 の内径が L E D 5 のレンズ 6 外径よりも小さめに形成され、ホルダ部 9 をレンズ 6 の外面へ被せたとき、スリット 1 0、1 0 の存在によって外方へ弾性変形してレンズ 6 の外面へ密着して取付可能なようになっている。このとき周方向スリット 1 0 a、1 0 a の存在によってホルダ部 9 の弾性変形が一層容易になる。

【 0 0 2 4 】

なお、図 4 の A は表面側（すなわち前方側、以下同）から光制御手段 7 を示す斜視図、B はその裏返し状態を示す図、C は裏面におけるホルダ部 9 を示す図である。

【0025】

図4のAに示すように、円板部8はLED5の直上部分となる反射主体部11とその周囲をなす反射・透過部12を有する。反射主体部11はLED5の光の透過量よりもリフレクター3側への反射量を多くするように設定されている。反射・透過部12は反射主体部11よりも透過量を多くしたものである。

【0026】

光制御手段7における光透過量の調節は、透明又は半透明材料の表面に光の不透過層を形成したり、半透明材料の肉厚を変化させること等によって可能である。このうち光の不透過層を形成するものとして、例えば、ドット印刷があり、ドット（網点）密度を変化させることによって光の透過量を調節できる。このようなドット層の形成は、印刷以外の他の方法、例えばドット状に蒸着メッキすることでも実現できる。

【0027】

この場合ドット密度を、反射主体部11で密、反射・透過部12で粗とすれば2段階に調節できる。但し連続的もしくは段階的に変化するようグラデーション化させればよりきめ細かく調節できる。また、このような処理の施されたフィルムを円板部8へ張り付け等により積層してもよい。

【0028】

なお、ドット層の形成に限らず、膜状の不透光層を形成し、その膜厚を変化させることにより透光量を調節することもできる。この場合、不透光層は非ドット状のベタ印刷又は蒸着メッキ等により形成でき、反射主体部11を厚く、反射・透過部12を薄くなるように形成すればよい。いずれの場合も、円板部8特に反射主体部11の光源側となる裏面は反射率を良好にしておく。

【0029】

円板部8の大きさは、拡散パネル2、リフレクター3及びLED5等との関係並びに必要とされる拡散パネル2の輝度等により任意に設定でき、例えば底部4の輪郭に内接する程度に底部4のほぼ全体を覆うようにすることもでき、また図2に示すように、より小さくすることもできる。

【0030】

図 6, 7 に示すように、リフレクター 3 はアルミ蒸着樹脂や金属など反射率の高い適宜材料からなり、底部 4 の周囲を囲む斜面部 1 3 を設ける。底部 4 とこれを囲む斜面部 1 3 で 1 ユニットをなし、これを必要に応じて任意数連続させて形成する。本実施例の場合、横一列に 6 ユニットが設けられる。

【 0 0 3 1 】

前方から見たとき、底部 4 は正方形であって、その中央に LED 5 の取付穴 1 4 が設けられる。また、周囲を囲む斜面 1 3 a を含めた状態すなわち 1 ユニットにおける形状も正方形になる。なお、斜面部 1 3 の両側に形成される斜面 1 3 a、1 3 a の境界は稜線 1 5 をなし、この稜線 1 5 を挟んで隣り合う斜面部 1 3、1 3 がピラミッド型をなす。

【 0 0 3 2 】

リフレクター 3 の周囲は外向きフランジ 1 6 をなし、ケース 1 a の上端部 1 b 上へ重なるようになっている。外向きフランジ 1 6 とケース 1 a の上端部 1 b の間及び外向きフランジ 1 6 と拡散パネル 2 の間は図示省略のシール手段により密に防水される。外向きフランジ 1 6 の位置は稜線 1 5 よりも高くなっている。また、外向きフランジ 1 6 と斜面部 1 3 の境界部、斜面部 1 3 と底部 4 の境界部、外向きフランジ 1 6 の屈曲部、(いずれも○印で示す) は、アール形状にしてもよい。

【 0 0 3 3 】

図 2 に示すように、稜線 1 5 の位置は拡散パネル 2 より離れてその下方にあり、かつ円板部 8 の位置は稜線 1 5 よりも寸法 H だけ低くなっている。この高さ関係は重要であるが、寸法は構成等により任意に変更できる。なお高さとは底部 4 を基準として、ここから拡散パネル 2 側へ突出する所定部までの寸法をいうものとする。

【 0 0 3 4 】

また、円板部 8 直上の拡散パネル 2 との空間は透過・乱反射域 1 7 であり、その周囲の空間は光乱反射域 1 8 となる。乱反射域 1 8 は稜線 1 5 の上方まで形成される。

【 0 0 3 5 】

次に、本実施例の作用を説明する。図5において、LED5に通電して発光させると、LED5の光は光軸19を中心に散光するが、最も光量の多いLED5の直上部分は円板部8の反射主体部11により、光の透過量を抑えられ、その多くがリフレクター3の底部4及び斜面部13側へ反射される。

【0036】

LED5から直接底部4及び斜面13aへ向かった光、及び反射主体部11により反射された光は、乱反射されてリフレクター3の上方全体へ広範囲に広がる。また、円板部8の反射・透過部12では、LED5から直接到達する光がLED5の直上である反射主体部11と異なり、ある程度光量が減少しているため、反射主体部11よりも透過量を多くする。但しある程度の反射量はあるので、これがリフレクター3側にて同様に乱反射される。

【0037】

その結果、反射主体部11を透過した光、反射・透過部12を透過した光、さらには乱反射した後で反射・透過部12を透過した光、乱反射域18へ達した光、乱反射域18側にて円板部8より高い斜面部13から反射されて透過・乱反射域17へ達した光等により透過・乱反射域17と乱反射域18はほぼ均一な光量になり、拡散パネル2の輝度を全面において均一にする。

【0038】

しかも、リフレクター3の各ユニットは正方形をなすので、各コーナー部と中央の光源からの距離が縦横いずれの方向にても等しくなるから、各ユニット毎にムラのない面発光状態となり、これを連続させた面発光装置1の全体としても均一な面発光が得られる。

【0039】

また、光制御手段7を介在させること及びLED5が発熱しないため、光源であるLED5を拡散パネル2へ近接できるので、全体の明るさを十分にでき、かつ装置の厚みを薄くして全体をコンパクト化できる。しかも特別なLEDを使用しなくても済むのでコストも安くなる。

【0040】

そのうえ、光制御手段7をLED5と別体に形成し、かつそのホルダ部9にて

レンズ型のLED5のレンズ6外面に対して着脱自在にしたので、光制御手段7を安価に製造できる。また、LED5を特別なものではなく市販のものにでき、簡単に面発光装置を構成できる。

【0041】

また、リフレクター3に斜面部13を設け、この斜面部13の最高部である稜線15よりも光制御手段7の反射主体部11及び反射・透過部12の位置を低くしたので、リフレクター3の斜面部13による乱反射光を、拡散パネル2と光制御手段7の間に形成される空間である透過・乱反射域17へ導き、透過・乱反射域17と乱反射域18の境界を無くすることができる。したがって、拡散パネル2と斜面部13の上方との間に形成される空間である乱反射域18と、光制御手段7上の透過・乱反射域17における光量を均一化し、拡散パネル2全体の輝度を均一化可能にする。

【0042】

さらに、底部4と斜面部13からなるリフレクター3の基本構造を前方から見て、正方形の1ユニットとし、これにLED5と光制御手段7を設けたものを複数組み合わせることにより装置を組み立てるので、需要に応じて自由な大きさの面発光装置1を形成できる。しかも、正方形とすることにより、各ユニットにおける輝度は全体が均一になるから、これらを組み合わせていかなる大きさの面発光装置を構成しても、全体として均一な輝度を実現できる。

【0043】

図8は第2実施例であり、1ユニットのみで構成した最小構成の面発光装置1を示し、この例ではケース1a、拡散パネル2、リフレクター3の全てが正方形をなす。リフレクター3は図6、7における1ユニットのみとしたものに相当する。これを必要により、必要数を縦横自由に並べて一体化すれば、任意の大きさの面発光装置が得られる。なお、ケース1a及び拡散パネル2は、専用の所定形状及び寸法を有する単一のものとしてもよい。

【0044】

図9～12は第3実施例であり、光制御手段7をリフレクター3に重ねて支持させるように形成したものに関する。図9は要部の分解図、図10は光制御手段

の一部を前方から示す図、図 1 1 は取付状態断面図、図 1 2 は光制御手段の 1 ユニット構成をした状態を示す。

【 0 0 4 5 】

図 9, 1 0 に示すように、この光制御手段 7 は図 6 等にしたものと同様に構成された 1 ユニットが正方形をなすものを多数個一体化したリフレクター 3 に対応し、これに直接被さる単一体として形成されている。

【 0 0 4 6 】

すなわち斜面部 1 3 及び稜線 1 5 に対応する斜面 2 3 及び稜線 2 5 を有し、かつ底部 4 の上方を覆う相似形で拡大した正方形の底部 2 4 を 1 ユニットとし、これをリフレクター 3 のユニット数と対応する数だけ一体に形成したものである。このような光制御手段 7 は、適当な樹脂フィルム又はシート等を凹凸に成形することにより容易に形成できる。このとき、底部 2 4 のうち、LED 5 の直上となる位置には、前記と同様にして透過・乱反射域 1 7 が形成され、その周囲には同心円状に乱反射域 1 8 が形成される。

【 0 0 4 7 】

また、底部 2 4 は斜面 1 3 a の中間部に位置するようになっており、斜面 2 3 もこの高さで底部 2 4 に連続する。したがって光制御手段 7 の稜線 2 5 が斜面部 1 3 の稜線 1 5 の上になるように光制御手段 7 をリフレクター 3 の上へ被せると、斜面 2 3 が斜面 1 3 a の上半側に重なり、底部 2 4 は底部 4 の上方に離れて位置するよう斜面部 1 3 により支持される。したがって取付穴 1 4 と稜線 1 5 の高低差 H も維持される。

【 0 0 4 8 】

図 1 2 は光制御手段 7 の 1 ユニットの稜線 2 5 でカットしたものに相当する最小単位の光制御手段 7 であり、これを多数用意しておけばリフレクター 3 側のユニット数が変化した場合にも、その各ユニット毎に光制御手段 7 を取付けることで容易に対応できる。この場合、斜面 2 3 は斜面部 1 3 の片側斜面 1 3 a のみに重なるが、それぞれがテーパー状をなすため、光制御手段 7 は自重により斜面 2 3 が同 1 3 a へ圧接された状態で位置決めされる。したがって、光制御手段 7 の取付が簡単になる。

【 0 0 4 9 】

図 1 3 及び 1 4 は第 4 実施例であり、光制御手段 7 を L E D 5 と一体化した例である。図 1 3 はその斜視図であり、この例では光制御手段 7 をなす円板状の傘部 3 0 と筒部 3 1 のうち、筒部 3 1 を L E D 5 のレンズ部としたものである。この L E D 5 は非レンズ型であり、傘部 3 0 の中心から突出する筒部 3 1 内に L E D 素子 3 2 を収容し、これに接続する端子 3 3, 3 4 を L E D 素子 3 2 の外方へ突出させたものである。

【 0 0 5 0 】

図 1 4 は傘部 3 0 の上面図であり、中心部の反射主体部 1 1 及びその周囲の反射・透過部 1 2 さらにはその外側部 3 5 までグラデーションをかけてドット密度を変化させてある。このような反射主体部 1 1、反射・透過部 1 2 及び外側部 3 5 の形成は前記したところと同様である。

【 0 0 5 1 】

このようにすると、光制御手段 7 を L E D 5 と一体に形成できるので、光制御手段 7 を別に設けて取付ける必要がなく、装置の構造及び組立が簡単になる。

【 0 0 5 2 】

図 1 5 は光制御手段 7 を L E D 5 と一体化した第 5 実施例である。この例ではレンズタイプの L E D 5 に適用してあり、レンズ 6 の頂部へ光制御手段 7 の円板状部 3 6 をレンズ 6 と一体に形成してある。すなわち、光制御手段 7 の筒部はレンズ 6 を共用することになる。但し、円板状部 3 6 をレンズ 6 と別体にガラス等で形成してレンズ 6 の頂部へ溶着させてもよい。光制御手段 7 の反射主体部 1 1 及び反射・透過部 1 2 等の構造は図 1 4 と同様である。

【 0 0 5 3 】

なお、本願発明は上記実施例に限定されず、同一の発明原理内において種々に変形や応用が可能である。リフレクターや光制御手段における 1 ユニットの形状は正方形に限定されない。例えば正 5 角形又は正 6 角形としてもよい。このような多角形の場合には、多数個をハニカム状に接続一体化できる。このように 1 ユニットを正多角形とすれば、各ユニットにおける拡散パネル 2 を全体が均一な面状発光状態に保つことができ、構成個数が多くなっても発光面の輝度は変化する

ことなく均一な状態を維持できるから、需要に応じて自由な大きさの面発光装置 1 を形成できる。

【0054】

なお、正多角形ではなく、円形であってもよい。この場合は多数個を一体化したとき、隣り合う 3 個の間に略 3 角形状の空間が形成されるが、この空間に対応する形状の別ユニットを用意しておき、これを円形のユニットと組み合わせることにより実現できる。この場合の別ユニットも本願発明における略正多角形を構成するものとする。

【図面の簡単な説明】

【図 1】第 1 実施例に係る面発光装置の斜視図

【図 2】図 1 の 2 - 2 線に沿う部分拡大断面図

【図 3】光制御手段の取付を示す図

【図 4】光制御手段を種々な角度で示す図

【図 5】作用を示す図

【図 6】リフレクターを前方から示す図

【図 7】図 6 の 7 - 7 線相当断面図

【図 8】第 2 実施例の 1 ユニットのみに構成した面発光装置

【図 9】第 3 実施例に係る要部の分解図

【図 10】第 3 実施例 上面図

【図 11】第 3 実施例 取付状態断面図

【図 12】第 3 実施例 1 ユニット構成をした状態を示す図

【図 13】第 4 実施例の斜視図

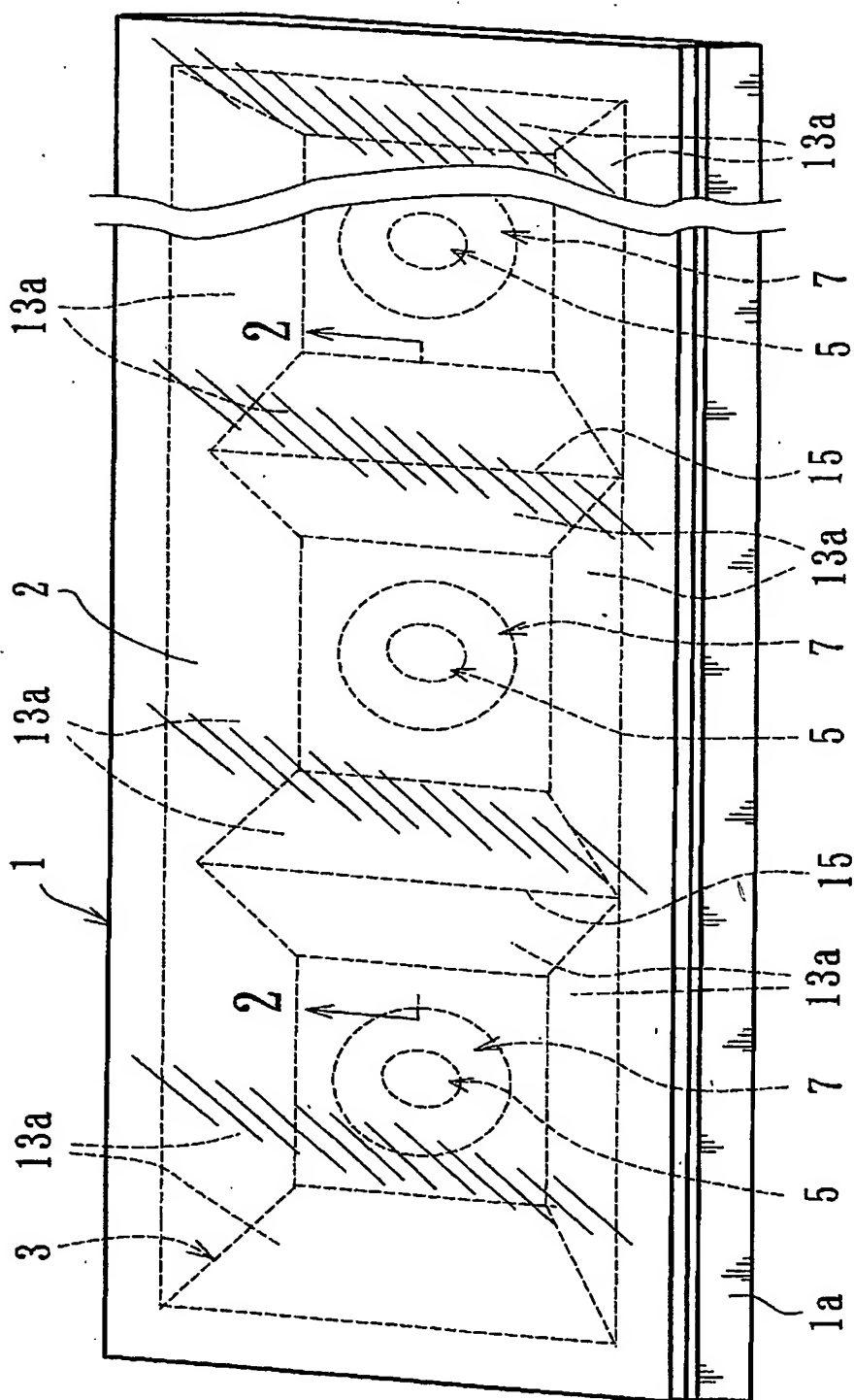
【図 14】第 4 実施例の傘部の上面図

【図 15】第 5 実施例に係る光制御手段と LED を示す図

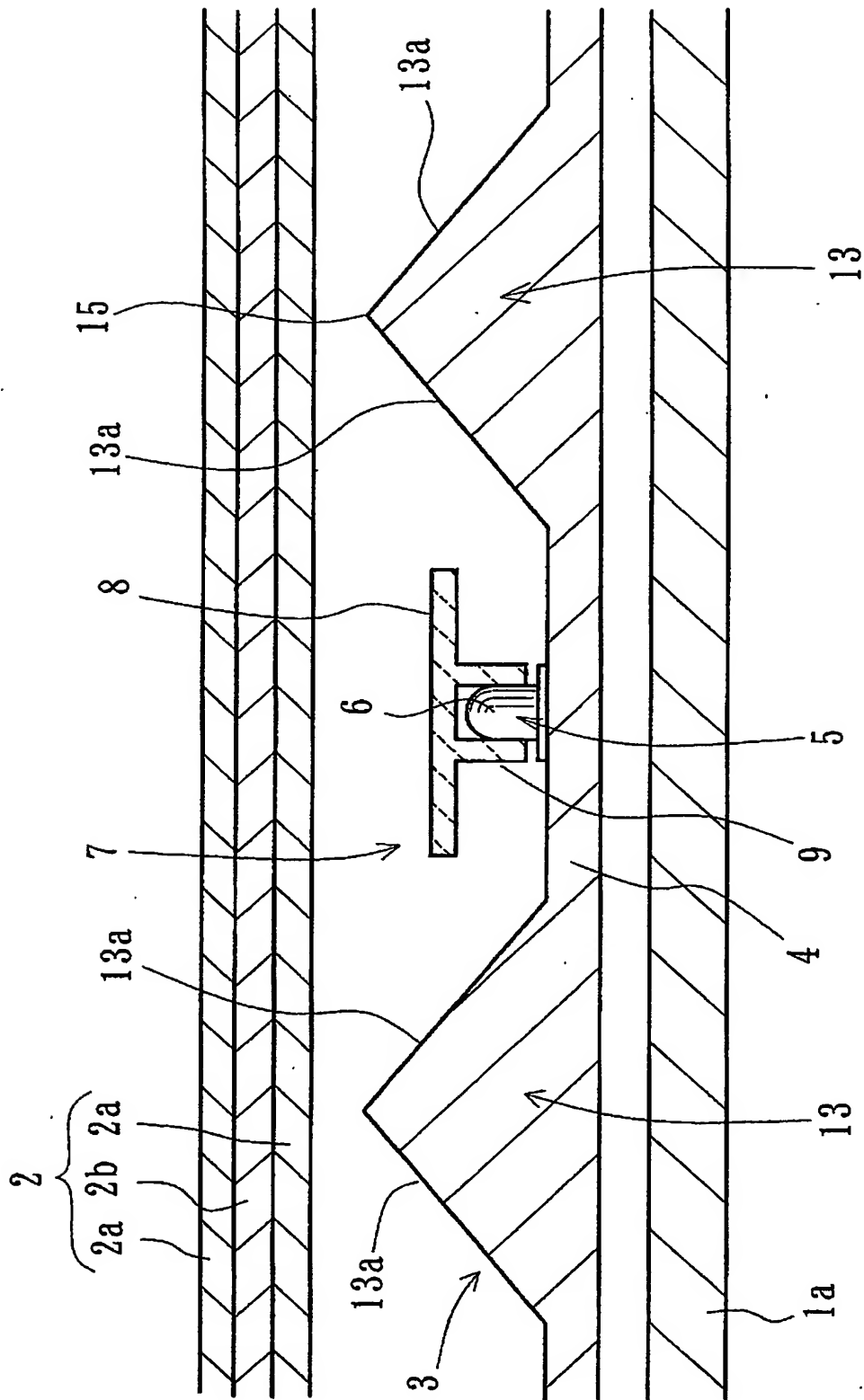
【符号の説明】 1 : 発光装置、1 a : ケース、2 : 拡散パネル、3 : リフレクター、4 : 底部、5 : LED、6 : レンズ、7 : 光制御手段、8 : 円板部、9 : ホルダ部、11 : 反射主体部、12 : 反射・透過部、13 : 斜面部、15 : 稜線、17 : 透過・乱反射域、18 : 乱反射域、23 : 斜面、24 : 底部、25 : 稜線、30 : 傘部、32 : LED 素子

【書類名】 図面

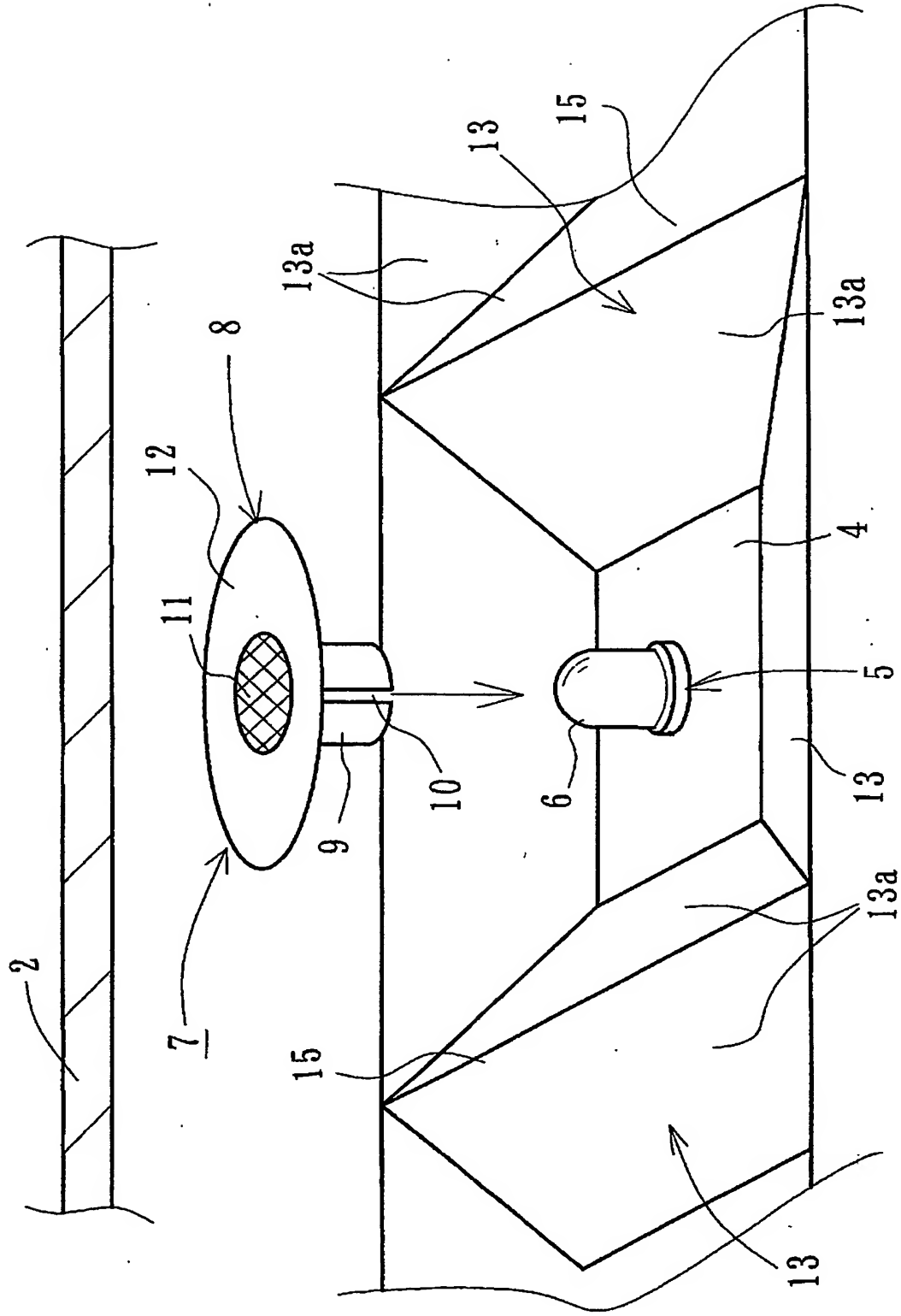
【図1】



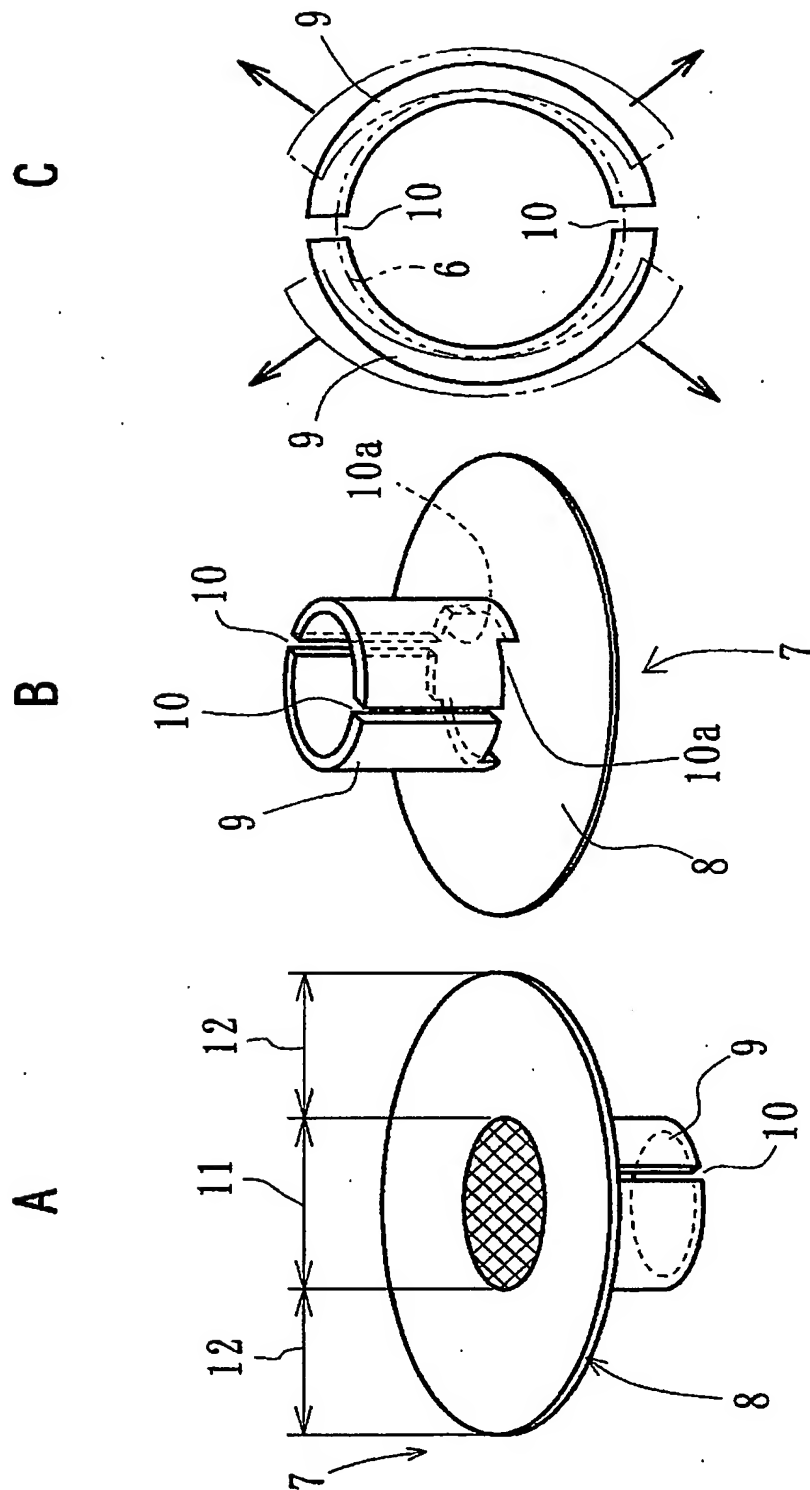
【図 2】



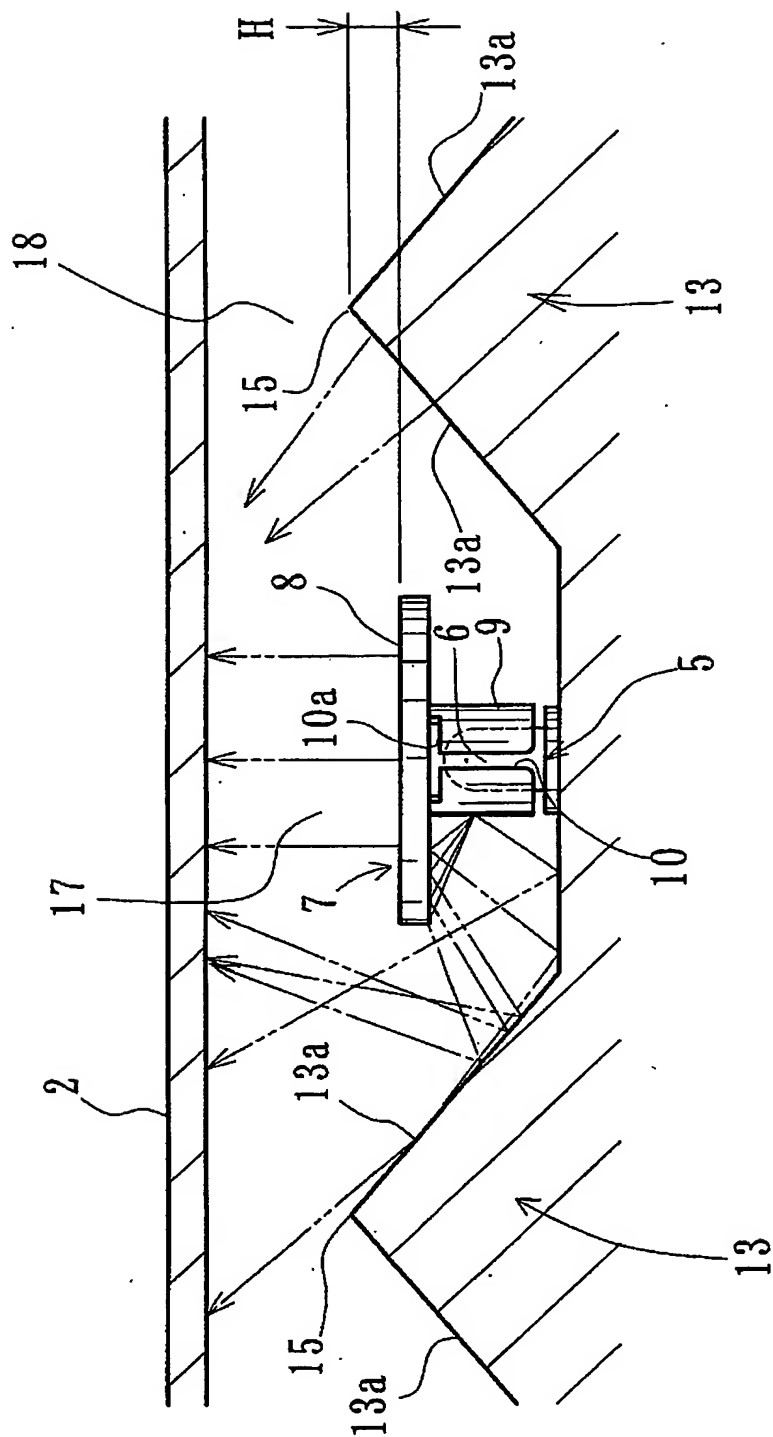
【図3】



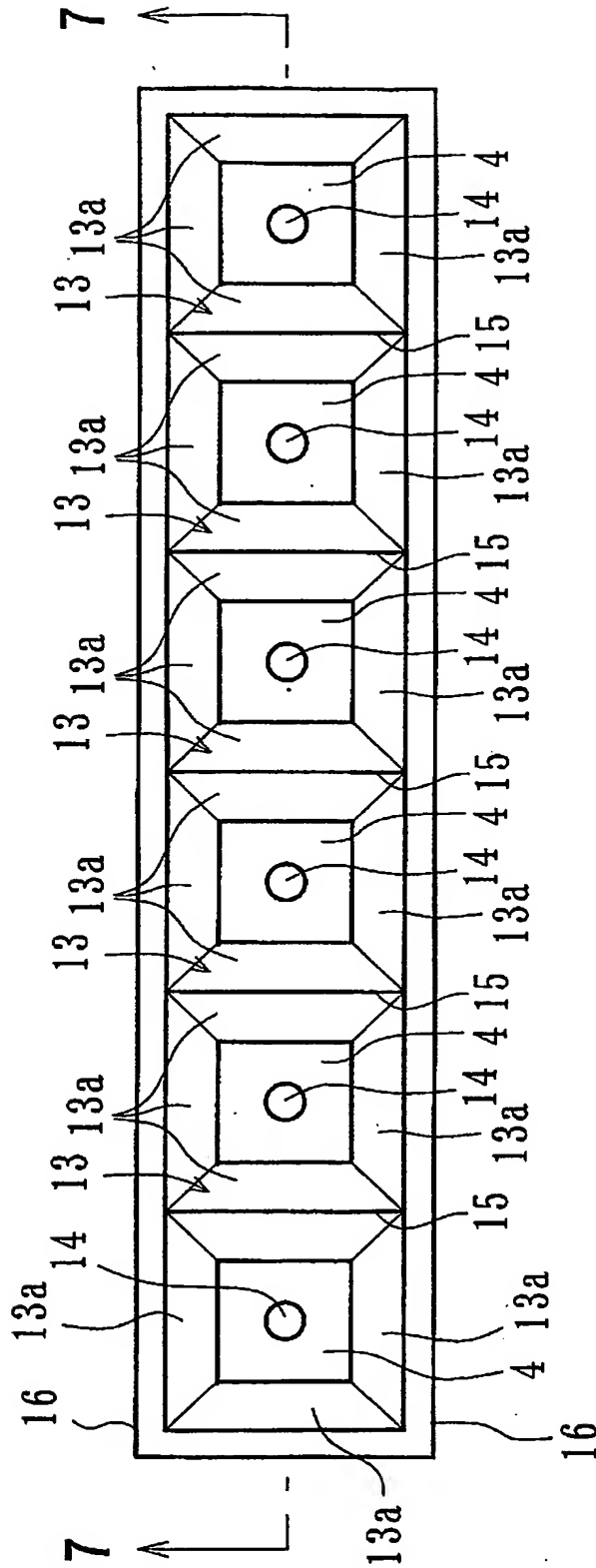
【図4】



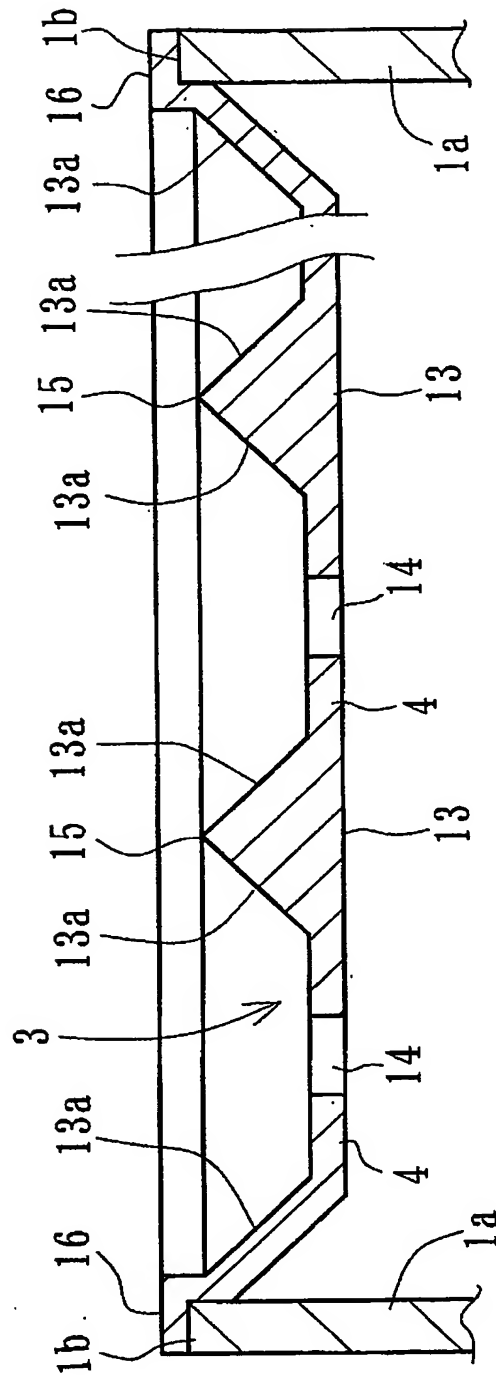
【図 5】



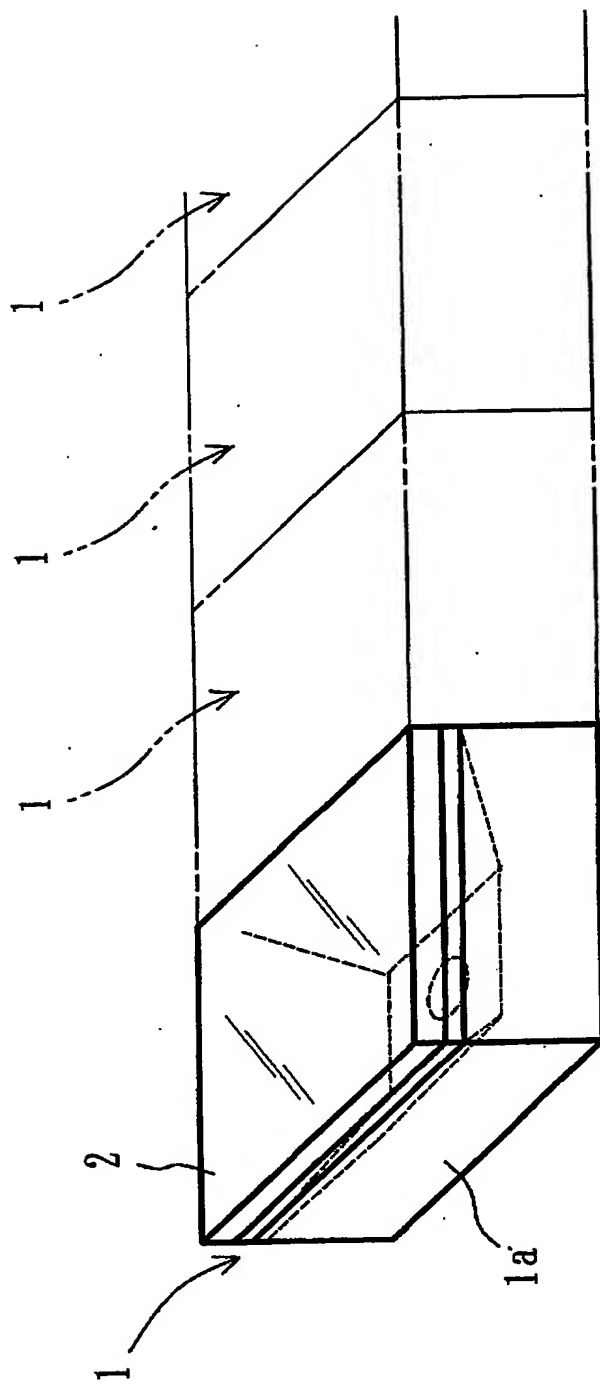
【図6】



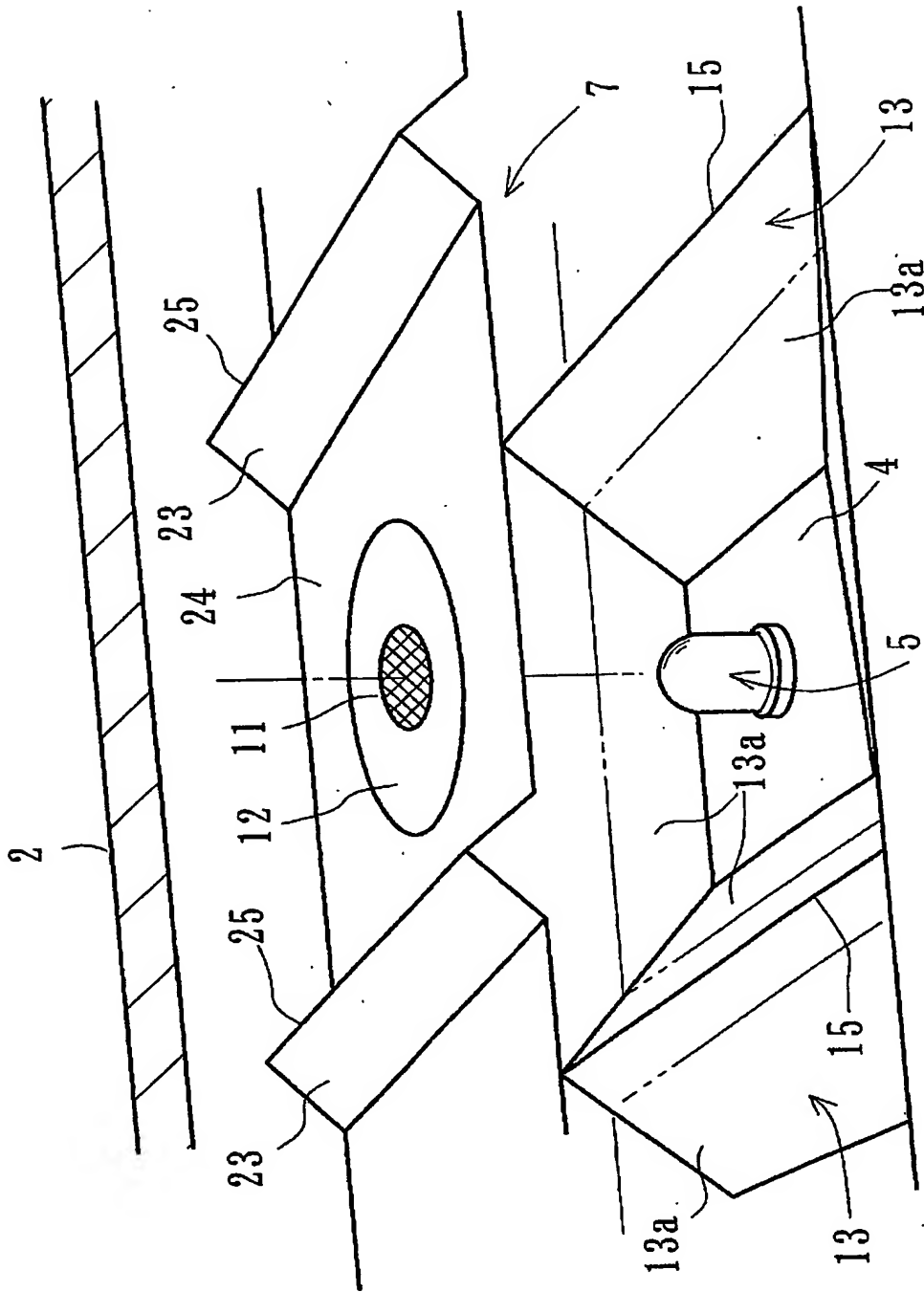
【図7】



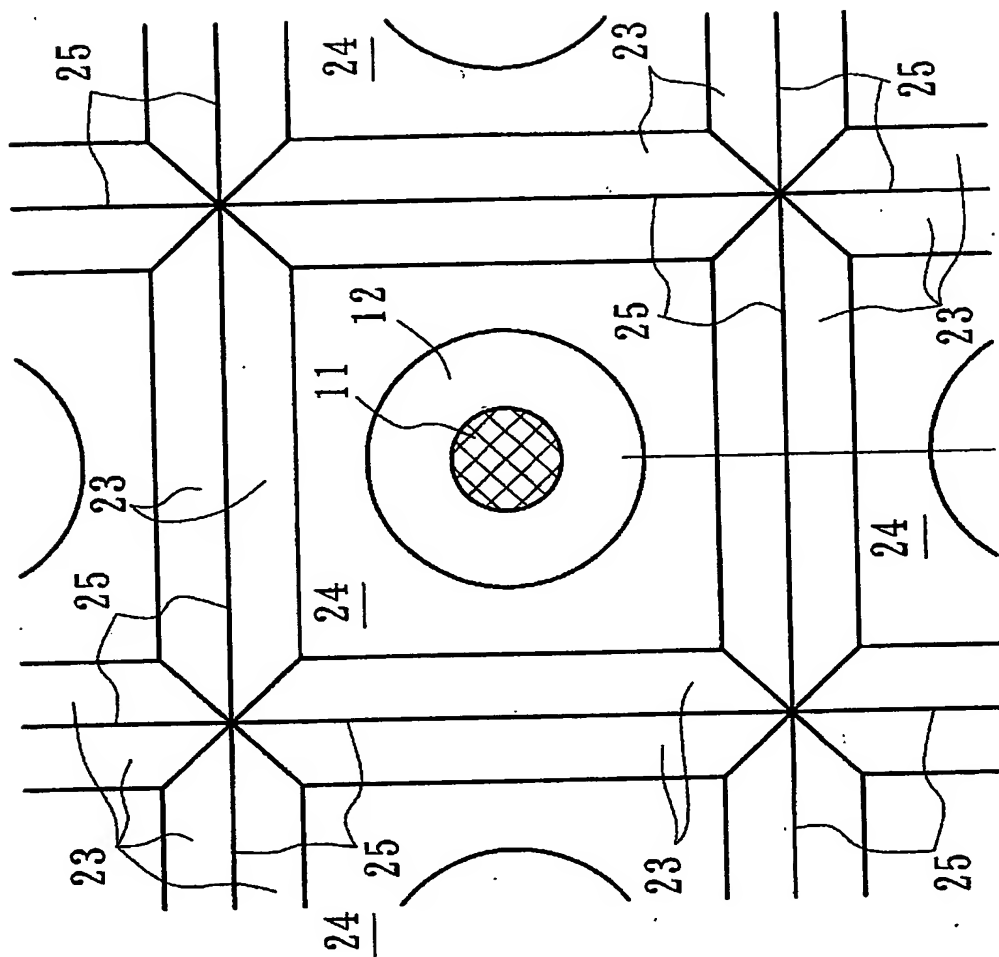
【図8】



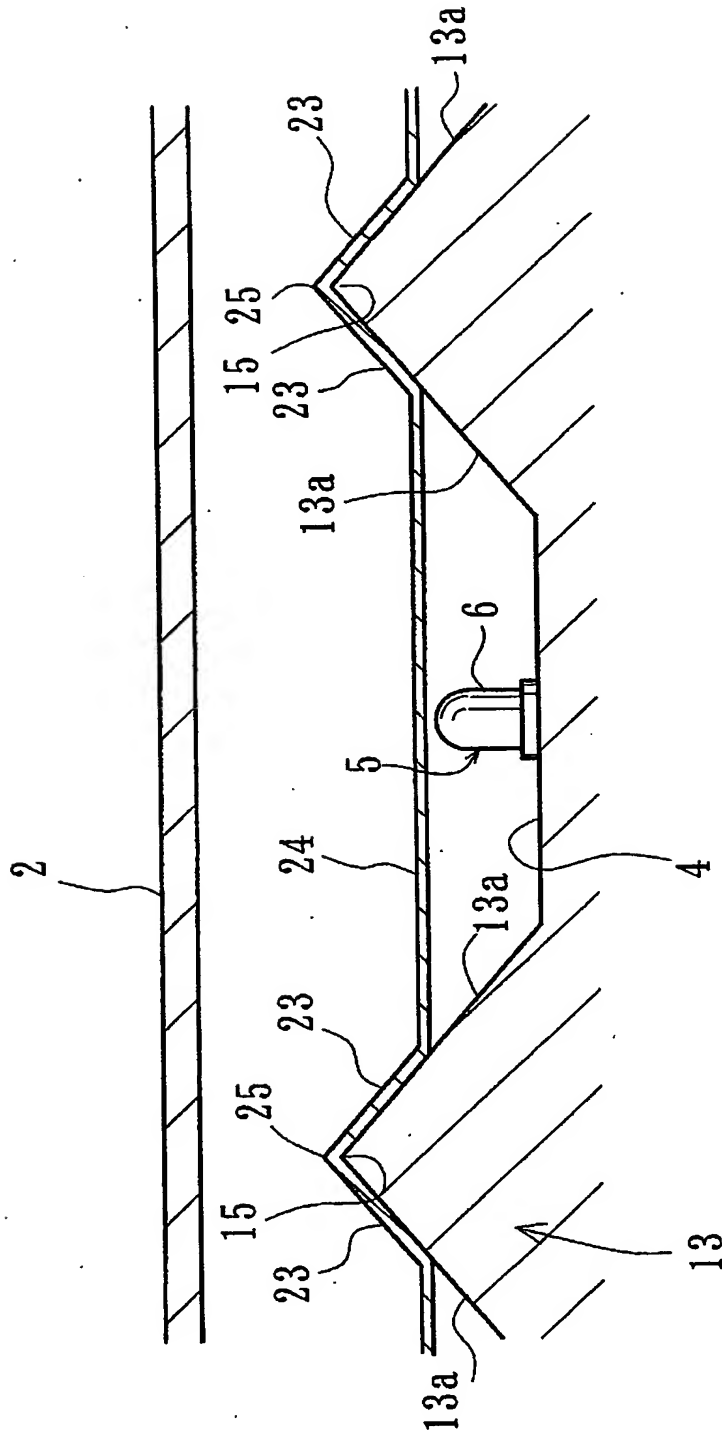
【図9】



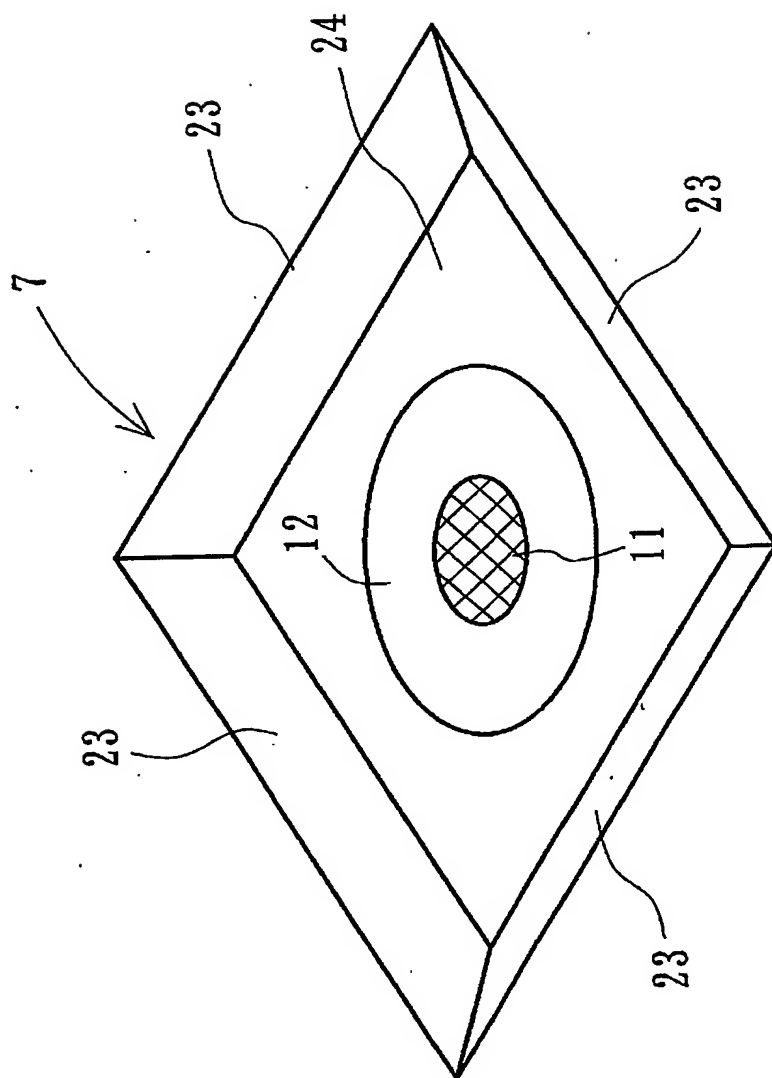
【図10】



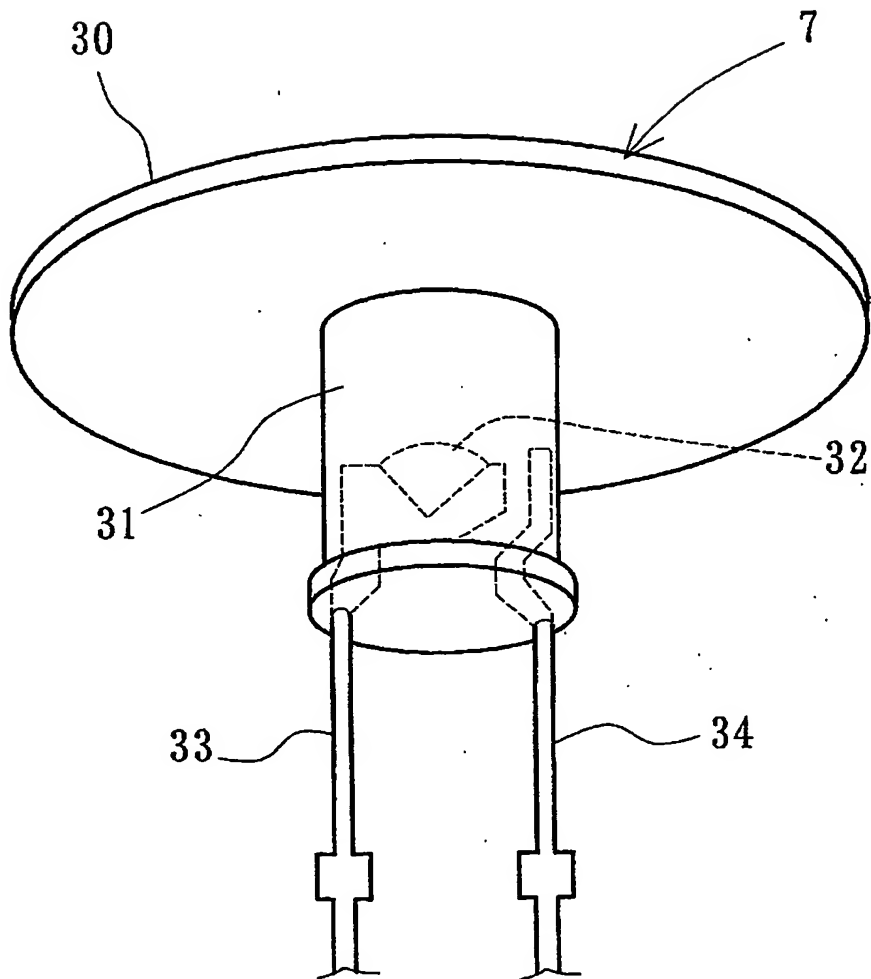
【図 11】



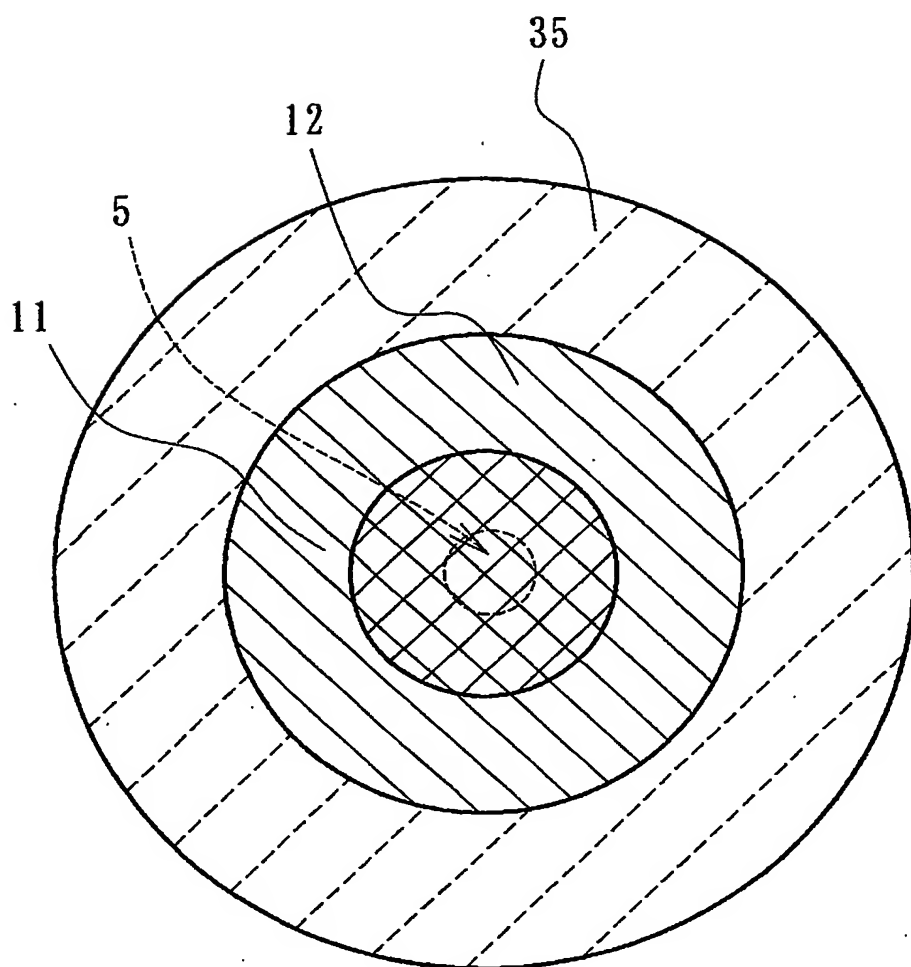
【図12】



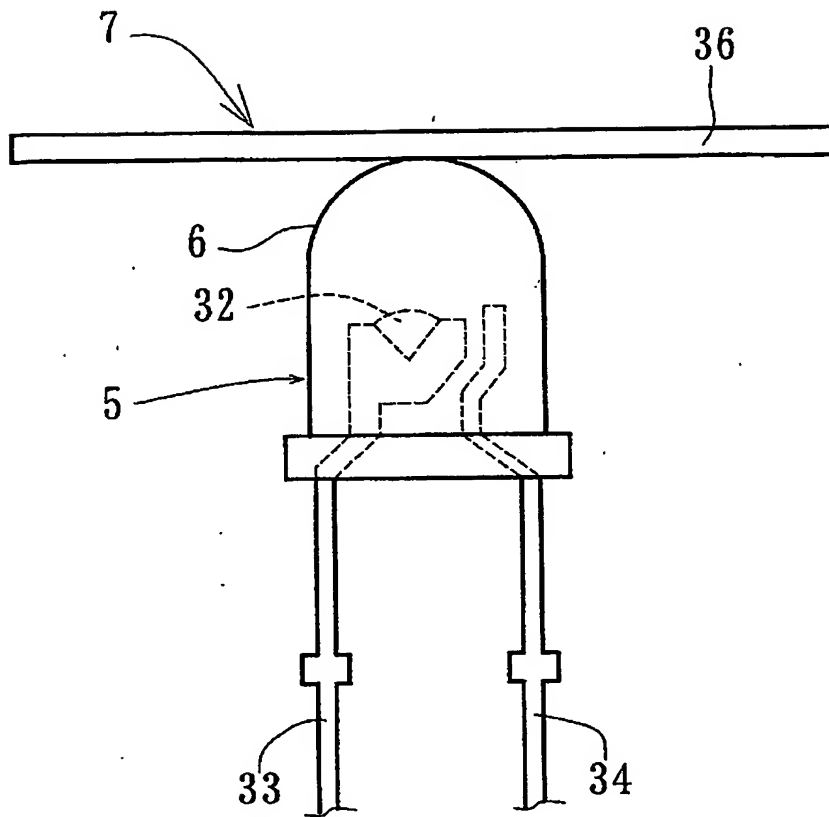
【図13】



【図 14】



【図 1 5】



【書類名】 要約書

【要約】

【目的】 拡散パネルの直下に配置した直下型のＬＥＤを用いて均一な面状発光を可能にしつつ、しかもコンパクトかつ安価にする。

【構成】 底部４とその周囲を囲む斜面部１３を有するリフレクター３を設け、底部４の中央にＬＥＤ５を取付ける。ＬＥＤ５のレンズ６に光制御手段７のホルダ部９を被せて着脱自在に取付け、光制御手段７の円板部８に反射主体部１１と反射・透過部１２を設ける。反射主体部１１はＬＥＤ５の透過量を少なくし、多くをリフレクター３側へ反射させる。反射・透過部１２は反射主体部１１よりも透過量を多くする。このようにすると、反射主体部１１及び反射・透過部１２を透過した光と、リフレクター３により乱反射した光により、リフレクター３の上方全体をほぼ均一な輝度にする。

【選択図】 図３

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2002-114801
受付番号	50200560307
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成14年 4月18日

<認定情報・付加情報>
【提出日】

平成14年 4月17日

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000137122]

1. 変更年月日	1990年 8月 7日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都港区南青山2丁目18番18号
氏 名	株式会社ボックス

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.